

# 伝統芸能文化創生プロジェクト

## 2021年度 事業報告書

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(TARO)



— 発行 —

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 京都芸術センター内

TEL 075-255-9600

FAX 075-213-1004

e-mail taro@kac.or.jp

URL <http://www.traditional-arts.org>

— 発行日 —

令和4年3月31日

伝統芸能文化を

未来へ

Traditional Arts  
Archive  
&  
Research  
Office

伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(TARO)



## 目次

1. 伝統芸能文化創生プロジェクトについて	p.1
2. 伝統芸能文化とは	p.2
3. 実施事業	
実施事業一覧	p.3
a. ネットワーク構築	p.4
— ネットワーク先リスト	
b. 伝統芸能文化の現代に適応した形での活性化	p.5~11
— 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム	
c. 伝統芸能文化の創生のための動画配信	p.12~15
— ほっこり民俗芸能オンライン・フェスティバル～ユースの部～	
— コロナ禍における無形民俗文化財のための継承・保存・活性化の相談窓口、デジタル配信のサポート	
d. 相談窓口	p.16~17
e. 受託事業等	p.18
新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業	
— 【企画制作】中学生の能楽大連吟～未来～	
— 【受託事業】教文伝統芸能シリーズ「能楽なう」	
f. ウェブサイトとYouTubeチャンネル	p.19
g. 伝統芸能文化創生プロジェクト推進会議委員より	p.20~22

## ■「伝統芸能文化創生プロジェクト」と「伝統芸能文化センター」構想

「伝統芸能文化センター」は、2011年に京都市が策定した「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）基本構想」（素案）に示されている“伝統芸能文化の継承・創造の拠点施設”です。センターが備えるべき機能として以下の6つが掲げられています。

- 1 伝統芸能に関する学術研究
- 2 伝統芸能に関する創造・普及
- 3 楽器・用具用品に関する相談・支援
- 4 ネットワーク・コーディネート
- 5 全国発信・地域間交流
- 6 海外発信・国際交流

この6つの機能の実現のため、先行的に実施した2007～2013年度の「京都創生座」や2009～2016年度の「五感で感じる和の文化事業」では、流派を越えて伝統芸能の持つ力を引き出す創作・公演や、国内外への発信・交流、一般市民への普及等に取り組んできました。その成果を引き継ぎ、2017年度からは「伝統芸能文化創生プロジェクト」として、上記の6つの機能を更に強化するための活動を行っています。この「伝統芸能文化創生プロジェクト」を推進する主体となるのが、京都市と京都芸術センターから成る伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス（TARO）です。

## ■ 伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス

（Traditional Arts Archive&Research Office 略称:TARO）

TAROは、「伝統芸能文化センター」に必要とされる機能の確保・強化に取り組む事務局として2017年度に京都芸術センター内に設置されました。伝統芸能の継承や保存、用具・用品とその材料の確保、普及・創造・発信活動など、伝統芸能文化の総合的な活性化の観点から、ネットワークの構築や基礎調査等を進めています。

## ■「伝統芸能文化センター」構想の経緯

2003年度	京都創生懇談会より「国家戦略としての京都創生の提言」提出
2004年度	「歴史都市・京都創生策」策定
2006年度	京都創生研究会「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）」分科会を設置。2008年度まで検討（全9回開催） 「歴史都市・京都創生策II」策定→国へ要望 「京都文化芸術都市創生計画」策定→「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）の整備」が重点課題に
2007年度	「京都創生座」事業の実施（～2013年度）
2009年度	「五感で感じる和の文化事業」の実施（～2016年度）
2011年度	「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）基本構想（素案）」策定→国へ要望（以降、毎年度要望） 「京都文化芸術都市創生計画 改訂版」策定→重要施策群1：継承と創造に関する人材の育成等に位置付け
2013年度	「創生劇場」の実施（～現在）
2014年度	「京都文化芸術プログラム2020」策定→プログラムを牽引する重要事業に位置付け
2016年度	「第2期 京都文化芸術都市創生計画」策定→8つの最重要施策のうちの1つに位置付け
2017年度	「伝統芸能文化創生プロジェクト」の実施 「伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス」を京都芸術センター内に設置

## 2 伝統芸能文化とは

TARO が対象とする伝統芸能文化は、古典芸能（落語、漫談、義太夫、奇術などの演芸も含む）や民俗芸能（広義の儀礼・祭礼・年中行事等を含む）、これらに不可欠な材料・道具の製作に係る伝統工芸技術に至るまで、極めて多岐にわたります。

伝統芸能文化創生プロジェクトでは、以上のように「伝統芸能」に係る多くの分野を総合した概念として「伝統芸能文化」という名称を用いています。

歴史を通じて形成されてきた精神性、美的感性、文化的価値が総合的に凝縮されている伝統芸能文化は、言語や文学の伝統と同様に失ってはならないかけがえないものです。

	古典芸能	民俗芸能
伝承者と鑑賞者	専門の実演家によって、目の肥えた観客を相手に演じられてきた。	芸能専門ではない伝承者によって、信仰行事の一環として、神仏に奉納するために演じられてきた。
内容	日本で近世以前に創始され、現在も実演されている芸能。能・狂言・歌舞伎・文楽・日本舞踊・邦楽・落語・講談など。	五穀豊穡・長寿・悪疫退散などを神に祈って行われる民間の信仰行事に伴い、各地域社会で伝承されてきた芸能。郷土芸能。
上記に係る伝統工芸技術や楽器・用具用品、材料等		
古典芸能、民俗芸能に用いられる楽器・用具用品、またそれらを作るために必要な材料や伝統工芸技術。		



## 3 実施事業

### ■ 実施事業一覧

#### a ネットワーク構築

ネットワーク先リスト

#### b 伝統芸能文化の現代に適応した形での活性化

伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム

#### c 伝統芸能文化の創生のための動画配信

ほっこり民俗芸能オンライン・フェスティバル～ユースの部～  
 コロナ禍における無形民俗文化財のための継承・保存・活性化の相談窓口、デジタル配信のサポート

#### d 相談窓口

#### e 受託事業等

新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業

【企画制作】中学生の能楽大連吟～未来～  
 【受託事業】教文伝統芸能シリーズ「能楽なう」

#### f ウェブサイトとYouTubeチャンネル

#### g 伝統芸能文化創生プロジェクト推進会議委員より

## a ネットワーク構築

## — ネットワーク先リスト

TARO は、伝統芸能文化の保存・継承・普及・アーカイブ等に取り組む下記の機関・施設等とネットワークを作り、情報共有と連携を図っています。

※ は今年度追加分です。

- |                                                           |                                                          |
|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> アサノ楽器                            | <input type="checkbox"/> ゴッタン成音会                         |
| <input type="checkbox"/> 粟田神社剣鋒奉賛会                        | <input type="checkbox"/> 嵯峨大念佛狂言保存会                      |
| <input type="checkbox"/> 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会               | <input type="checkbox"/> 鹿角工芸 ハタリ源角堂                     |
| <input type="checkbox"/> 今井三絃店                            | <input type="checkbox"/> 茂山千五郎家                          |
| <input type="checkbox"/> 石見神楽産業化モデル事業実行委員会                | <input type="checkbox"/> 次代に邦楽をつなぐプロジェクト                 |
| <input type="checkbox"/> 鹿児島市文化振興課                        | <input type="checkbox"/> 曾於市立財部北小学校                      |
| <input type="checkbox"/> かごしま文化情報センター                     | <input type="checkbox"/> 田中製紙工業株式会社                      |
| <input type="checkbox"/> 加勢鳥保存会                           | <input type="checkbox"/> 田中村六斎念仏保存会                      |
| <input type="checkbox"/> 交野ヶ原 交野節・おどり保存会                  | <input type="checkbox"/> 地方独立行政法人京都市産業技術研究所              |
| <input type="checkbox"/> 株式会社篠笛文化研究社                      | <input type="checkbox"/> 伝統芸能の道具ラボ                       |
| <input type="checkbox"/> 株式会社鳥羽屋                          | <input type="checkbox"/> 東京鹿踊                            |
| <input type="checkbox"/> 株式会社宮本卯之助商店                      | <input type="checkbox"/> 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター |
| <input type="checkbox"/> 上鳥羽橋上鉦講中                         | <input type="checkbox"/> 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所無形文化遺産部    |
| <input type="checkbox"/> 木之本町邦楽器原糸製造保存会                   | <input type="checkbox"/> 十津川村総務課企画グループ                   |
| <input type="checkbox"/> 岐阜県産業技術センター繊維・紙業部                | <input type="checkbox"/> 十津川盆踊り実行委員会                     |
| <input type="checkbox"/> 九州の神楽ネットワーク協議会                   | <input type="checkbox"/> 富田人形共遊団                         |
| <input type="checkbox"/> 京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室伝統産業担当       | <input type="checkbox"/> 奈良県地域振興部文化財保存課                  |
| <input type="checkbox"/> 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課          | <input type="checkbox"/> 能楽大連吟実行委員会                      |
| <input type="checkbox"/> 京都市歴史資料館                         | <input type="checkbox"/> ひつつんつん保存会                       |
| <input type="checkbox"/> 京都市立御所南小学校                       | <input type="checkbox"/> 福居一大会館島ごったん部                    |
| <input type="checkbox"/> 京都伝統産業ミュージアム(公益財団法人京都伝統産業交流センター) | <input type="checkbox"/> 福知山伝統文化を守る会                     |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人鼓童文化財団                     | ——NPO 法人丹波漆、福知山藍同好会(由良川藍)、                               |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人札幌市芸術文化財団                  | 丹後二俣紙保存会(丹後和紙)                                           |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人日本伝統文化振興財団                 | <input type="checkbox"/> フリースタイルな僧侶たち                    |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団                | <input type="checkbox"/> 文化庁地域文化創生本部                     |
| <input type="checkbox"/> 公益財団法人未来工学研究所                    | <input type="checkbox"/> 文化庁文化財第一課                       |
| <input type="checkbox"/> 公立大学法人京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター       | <input type="checkbox"/> 邦楽ジャーナル                         |
| <input type="checkbox"/> 大学共同利用機関人間文化研究機構                 | <input type="checkbox"/> 三股町企画商工課                        |
| <input type="checkbox"/> 国際日本文化研究センター(日文研)                | <input type="checkbox"/> 宮崎県オールみやざき営業課                   |
| <input type="checkbox"/> 国立能楽堂(独立行政法人日本芸術文化振興会)           | <input type="checkbox"/> 八瀬郷土文化保存会                       |
| <input type="checkbox"/> 古典芸能よせびっ                         | <input type="checkbox"/> 有限会社 十松屋福井扇舗 ほか(50音順)           |

## b 伝統芸能文化の現代に適応した形での活性化

## — 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム

伝統芸能文化(古典芸能、民俗芸能、又はそれらに係る楽器・用具用品、材料や伝統工芸技術等)において支援を必要とするプログラムを公募し、内容を審査したうえで、伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィスとの共同プログラムとして実施しました。

「伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム」は助成金ではありません。提出された申請書を基に計画から運営まで申請者と TARO が共同で行うという全国でも他に類を見ないものです。申請者(団体)と TARO のいずれか一方だけでは実現できないような取り組みを共同で実施することで、伝統芸能文化に新しい波を起こすことを目指しました。

今年度は14件の応募があり、審査を経て3件を採択し、現在進行中です。平成30年度に採択した3件はすべて事業を完了しました。令和元年度に採択した3件のうち2件、令和2年度に採択した1件は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、次年度以降の完了を目指しています。

## 1. 目的・特徴

伝統芸能に用いられる楽器・用具用品の復元や、伝統芸能文化を現代に適合した形で活性化させようとする取組を、伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィスと共同で実施しました。

## 2. 募集する事業

- ア 伝統芸能文化の保存、継承、普及、活用のために必要な取組
- イ 継承に関して緊急性・必要性が高く、関係機関の協力が必要な取組

## 3. 対象者

研究者及びコーディネーター、実演家、職人、地域の文化を保存する方々など

## 4. 伝統芸能アーカイブ&amp;リサーチオフィスが負担する金額上限

1件当たり 100万円

## 5. 募集期間

2021年4月26日(月)～6月30日(水)



## — 平成30年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

### すでに完了した事業

#### 上鳥羽の芸能六斎の復活を目指して— 祇園囃子の創作

申請者：上鳥羽橋上鉦講中（代表：熊田茂男）

#### 柳川三味線のための胴皮新素材開発

申請者：林美恵子（柳川三味線）

#### ゴッタンゴッタンの製造技法および基礎資料のアーカイブと交流ネットワークの創出

申請者：ゴッタンプロジェクト（代表：橋口晃一、黒坂周吾）

## — 令和元年度 伝統芸能文化復元・活性化プログラム採択事業

### すでに完了した事業

#### 新内節新内節の発信と保存プロジェクト

申請者：新内節の発信と保存プロジェクト（代表：新内志賀）

### 現在進行中の事業

#### 十津川盆踊りの伝承・保存・活用発信

申請者：十津川盆踊り実行委員会（実行委員長 佐古金一、事務局 土井麻利江）



国・村の文化財指定有無に関わらず、各大字で異なる特色を持つ十津川盆踊りの現状調査、演目の復元、ネットワークの構築に取り組み、それに応じた伝承・保存方法を提案します。伝統芸能を地域振興にも活かす方法を模索し、プロジェクトの過程と成果を情報発信します。

### ● 今後の予定

各字の盆踊り保存会の代表者が集まり情報を共有するタウンミーティングを開催し、十津川の10字の盆踊りに関する総合情報ウェブサイトを作成しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行の影響から、大踊り「十三四五」の復興はいまだ実行できていません。十津川盆踊りのパンフレットの作成も予定しています。



### 新素材による鉦すりの試作と生産業者の探索

申請者：祇園祭囃子方連絡会（代表：木村幾次郎）



祇園祭のお囃子に用いる鉦すりの柄は鯨の髭から作られてきました。近年では鯨の髭が入手困難であるため樹脂製のものも多いですが、耐久性等に課題があるため、既存品よりも「しなり」の良い新素材による柄の開発を目指しています。

### ● 祇園祭・新素材による鉦すりお披露目会

現行品よりも鯨の髭に物性が近い樹脂の柄を開発し、それに鹿角の頭を取り付けた試作品を作成しました。この新素材による鉦すりの演奏に加えて、開発の成果プロセスと新素材の物性検査の結果を報告する会を開催しました。

日時：2022年2月6日（日）

会場：京都芸術センター 講堂



### ● 今後の予定

次年度の祇園祭で試作品を使用してフィードバックを得る予定です。



## — 令和2年度 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム採択事業

## 現在進行中の事業

## 見島のカセドリ藁蓑製作技術の確保計画

申請者：加勢鳥保存会（代表：武藤隆信）



見島のカセドリで使用する藁蓑は、経年による劣化が目立ちますが、保存会に藁蓑を製作できる技術がなく、また他地域にも製作できる技術者が見つけられていない状況でした。そこで、各地の藁蓑に係る団体や機関をリサーチし、藁蓑を製作できる技術者を探し、その技術者から加勢鳥保存会のメンバーに製作技術を伝承してもらいます。また、その過程を記録保存し、公開することで、将来にわたり継続して藁蓑の製作技術が伝承される体制を構築し、全国のモデルとなることを目指します。

※ 見島のカセドリ：佐賀市蓮池町の見島地区で小正月に行なわれる行事。平成30年に「来訪神・仮面・仮装の神々」のひとつとしてユネスコ無形文化遺産に登録された。

## ● 今後の予定

東北出身で関東在住の藁工作職人に蓑のサンプルを作成してもらいましたが、対面での技術伝承が困難であるため、現在は zoom を利用したオンライン講習会を定期的に開催しています。また、佐賀の見島地区では、次年度から保存会内で藁蓑作りを開始できるように、十分な量の稲藁を用意しています。



↑ zoom を利用したオンライン藁蓑講習会

## — 令和3年度 伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム採択事業

## 現在進行中の事業

## 古物重厚意匠糊地能楽扇の写し製作

申請者：有限会社 十松屋福井扇舗（代表：福井芳秀）



能楽や日本舞踊等で用いられる舞台用の扇には重厚細密な扇面絵が描かれているものがありますが、近年では制作の機会が著しく減少しています。そこで、京都在住の能楽シテ方の家が所蔵する扇の「写し」を通じて、高度な扇面上絵技術の継承を行います。また、製作できる職人が減少している古式の扇面地紙「糊地」については、素材分析によって現在主流の「合わせ地」との違いを明確にし、その工芸的価値と舞台効果を周知します。製作した扇は、実際の公演で仕上がりを確認します。

## ● 今後の予定

「写し」を行う扇と、下絵・箔押・上絵といった各工程を担当する職人の選定を行いました。2022年度中に2つの扇の写しを完成させ、能と日本舞踊の舞台で実際に使用してその出来栄と舞台効果を確認する予定です。また、「糊地」の科学的分析にも着手しています。



↑ 重厚細密な扇面絵



↑ 半透明の「糊地」を活かした「透かし」（近衛引と花丸上絵）



### 笛譜・唱歌制作による石見神楽の継承円滑化事業

申請者：石見神楽産業化モデル事業実行委員会（代表：日高均）



島根県を代表する郷土芸能である石見神楽の笛は、演者の口伝や独学によって受け継がれてきましたが、技術の習得に大きな困難があります。そこで本事業では、京都の芸能関係者と協力して、譜面とオノマトペ（擬音）による「口唱歌」を作成し、笛の稽古を円滑に行えるような指導方法を確立させることを目指します。その指導方法を石見神楽各社中で共有することで、笛の指導者と演奏者の育成を図ります。

#### ● 今後の予定

京都の民俗芸能の笛指導者が事業の対象地域である浜田市を訪れ、石見神楽の一社中と打合せを行いました。打合せでは、どの曲の譜面と口唱歌を作成するのかを検討し、現在、笛指導者がそれを作成しています。今後、新しく作成した譜面と口唱歌を用いた指導方法を試行していく予定です。



↑ 過去に開催した笛教室

### 三味線音楽の Scratch 教材開発： 常磐津節を通じて日本の伝統芸能に親しむための教育プログラムづくりと その普及の試み

申請者：次代に邦楽をつなぐプロジェクト（代表：重藤暁）

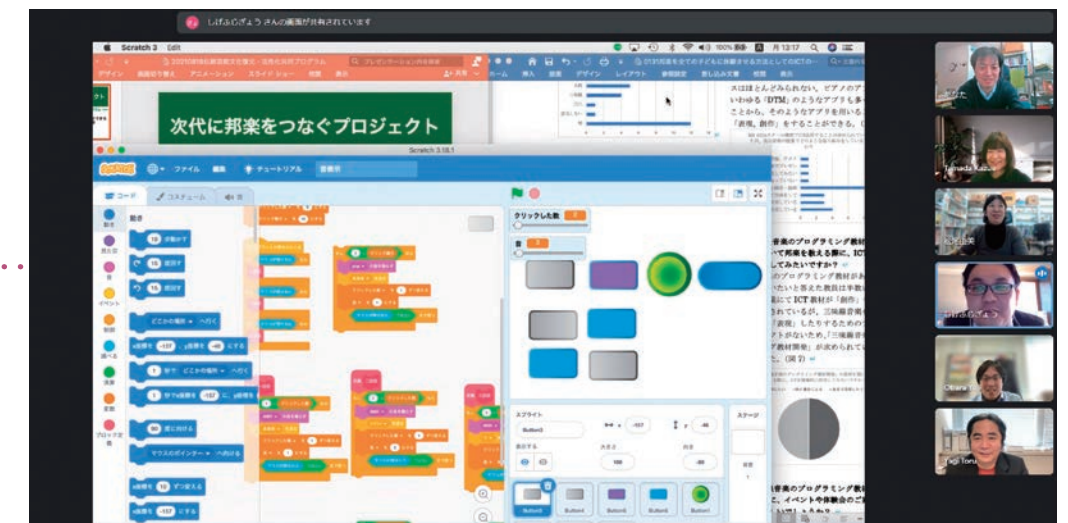


↑ 常磐津三味線の演奏者チーム

GIGA スクール構想の実施に当たって、小学生を対象とした日本の伝統音楽に関する教材をビジュアルプログラミング言語（Scratch）で開発します。協力が得られる小学校でテスト運用し、そのフィードバックを踏まえて改良を行い、教材と指導マニュアルをウェブ上で公開します。また、教員向け研修会を開催し、本教材を小学校の授業実践に活用してもらうための普及活動を行います。

#### ● 今後の予定

Scratch教材の試作品をつくり、2021年12月9日に開催された文化庁主催の「芸術系教科等担当教員等 全国オンライン研修会」に参加して、小・中学校、高校の教員に紹介するとともにアンケートによりフィードバックを得ました。2022年度中に幾つかの小学校で運用してもらうことを目指して教材をブラッシュアップしていく予定です。



↑ Scratch教材開発チームのオンライン・ミーティング



## c 伝統芸能文化の創生のための動画配信

### — ほっこり民俗芸能オンライン・フェスティバル～ユースの部～

京都、大阪、滋賀それぞれの地域における民俗芸能の次世代を担うユース世代（20歳以下）の活躍に焦点を当て、その活動を YouTube で動画配信しました。お祭りや舞台での上演の機会が著しく制限されている現状において、若い世代が活躍する様子をオンラインで見て、ほっこりした気持ちになってもらうためのフェスティバルです。

#### 出演団体

京都：嵯峨こども念仏狂言

大阪：交野ヶ原交野節・おどり保存会

滋賀：富田人形共遊団ジュニアクラス

※ スペシャルゲストとして石見神楽・西村神楽社中こども神楽の参加を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により撮影できませんでした。

コメンテーター：原田一樹（祇園祭綾傘鉦囃子方／壬生六斎念仏講中）

動画配信媒体：TARO の YouTube チャンネルで配信中

TARO の Youtube チャンネル





### — コロナ禍における無形民俗文化財のための 継承・保存・活性化の相談窓口、デジタル配信のサポート

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて集会や稽古、公演が著しく制限されている民俗芸能の分野において、発信力を強化し、今後の継承・保存・活性化につなげるため、既存の相談窓口を拡張して映像配信に関する相談も受け付けるとともに、デジタル配信のサポートを行いました。映像配信に対して意欲的な京都市内の民俗芸能関係者や団体を募集し、2021年度の取り組みや実情を紹介する動画（英語字幕付き）を、プロのカメラマンと構成作家による撮影・編集で作成し、2022年3月現在、5つの動画をTAROのYouTubeチャンネルで配信しています。

動画配信媒体：TAROのYouTubeチャンネルで配信中



伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス  
Traditional Arts Archive & Research Office

2021年度、民俗芸能の映像撮影・配信に関する相談窓口を設置しました。

伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス（略称：TARO）は、京都に古くから継承されている民俗芸能および伝統行事の情報発信と相談に総合的に対応しています。  
2021年度は以下のような支援を無料で行っています。

- プロのカメラマンと構成作家が撮影撮影と編集をおこなう
- 前に撮影した映像素材を専門スタッフが編集してWEB配信に活用する
- 撮影の動画に英語字幕をつけてYouTubeで配信する

映像の内容や配信の方法はご希望に応じて、可能な限り対応いたします。  
TAROが撮影できる件数には上限がありますので、ご興味のある方は、お早めにTAROまでご連絡ください。

伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス  
〒600-8111 京都府京都市中京区東本願寺町下る山崎山崎4-1-1  
京都府民センター2階  
TEL 075-233-9400 FAX 075-233-9401  
E-MAIL taro@tarokyo.or.jp  
\*スマートフォンでもご覧いただけます。

伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィスについて  
京都府民センターで実施されている伝統芸能の継承・保存・活性化を目的とする「伝統芸能文化データベース」構築への支援の一環として、2014年度より、京都府民センター（旧・京都市民センター）内に「伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス」を設置し、民俗芸能の記録・発信・相談窓口として活動しています。2021年度は、京都府民センターの施設を借り、伝統芸能の記録・発信・相談窓口として活動しています。



上鳥羽六斎念仏の子どもたち～ある日の練習風景～



祇園祭ドキュメント 2021 南観音山の夏～聴こえてきた巡行の光～



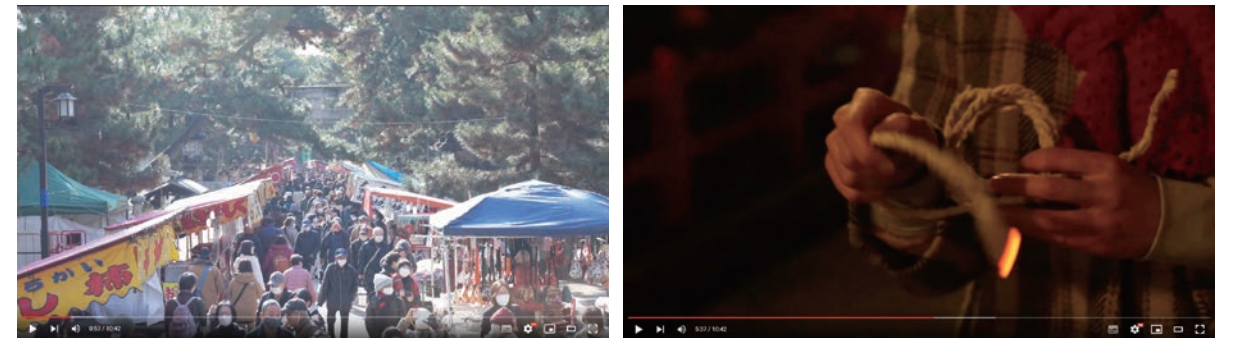
山間に揺らめく燈ともしび ～2021年八瀬赦免地踊りの中止をめぐって～



栗田祭の剣鉾差し 2021



京都の大晦日の伝統行事 2021





## d 相談窓口

TARO では、伝統芸能文化に係る相談窓口を設置しています。芸能の演者、彼らを支える人、芸能に関心のある人など、どなたからでも相談を受け付けています。また、それをきっかけに様々な支援活動を展開しています。

質問・相談者	連絡方法	質問・質問内容
アーティスト ----- 17	電話 ----- 92	TARO の活動について ----- 32
実演家（古典芸能）----- 83	メール ----- 157	取材依頼 ----- 18
実演家（民俗芸能）----- 94	対面 ----- 77	復元・活性化共同プログラムに関する質問 ----- 113
職人 ----- 18	オンライン ----- 6	新型コロナウイルス感染症に関わる相談 ----- 8
研究者 ----- 8	(件)	映像撮影・配信に関する相談 ----- 35
一般 ----- 12	<b>地域</b>	活動・取組の相談 ----- 116
学校 ----- 2		その他 ----- 10
企業 ----- 14	京都府内 ---- 219	(件)
団体・公共施設 ----- 43	京都府外 ---- 111	
市町村（地方自治体）---- 31	その他 ----- 2	
メディア・プレス ----- 7	(件)	
その他 ----- 3	(件)	(2021年4月1日から2022年2月19日現在) <b>件数 332件</b>

## 質問・相談例

伝統芸能文化復元・活性化共同プログラムのことは3年前から知っていたが、行政に頼ることに対しては周りの目が気になっていたのが様子を見ていた。これまでの事業を見て、私も申し込みのための相談をしたい。（道具製作者）



京都の祭りや職人に興味があるので、彼らへの取材や撮影に協力してほしい。（海外の映像ディレクター）

祭りを維持するためには人材と道具の両方の維持が必要であり、そのための取り組みに対して支援してほしい。（民俗芸能実演家）

「文化庁 ARTS for the future!」と「京都府 WITH コロナ文化活動支援補助金」などの助成金・補助金を申請するにあたって、書類の書き方や企画についてアドバイスしてほしい。（能楽師、狂言師、日本舞踊家、落語家など多数の実演家）

海外公演の企画プレゼンを行うことになったため、相談に乗ってほしい。（邦楽演奏家）

劇場公演で能楽師を他地域から呼ぶ予定だが、どの程度の予算がかかるのか教えてほしい。（公共施設）

日本舞踊のパンフレットを作成する予定だが、誰にどのように依頼すれば良いのか。（一般企業）

古典芸能の映像をプロモーションに使用したいので、権利関係について教えてほしい。（一般企業）

古典芸能の撮影経験のあるカメラマンを紹介してほしい。（公共施設）

京都でおすすめの公演会場を教えてください。（民俗芸能実演家）

TARO が共同開発した三味線の和紙胴を長唄にも使用したいので、流通ルートが決まったらぜひ知らせてほしい。（古典芸能実演家）

TARO が共同開発した鉦ずりを他の民俗芸能でも使用したいので、分けてほしい。（研究者）

自分が関わっている民俗芸能をもっと外に発信したいので一緒に考えてほしい。（民俗芸能関係者）

ある民俗芸能の保存会がかなり高齢化してきており、道具を作っている他地域の職人も古希を迎えた。保存会をどうやって残していったらいいか、何かしてあげられる術はないか、助言がほしい。（市町村）

公演や映像配信をめぐる揉め事が起きている。どのように仲裁すればよいか、アドバイスがほしい。（公共施設）

コラボレーションできる詩の朗読者を紹介してほしい。（古典芸能実演家）

古典芸能に関するトークや批評家を紹介してほしい。（公共施設）

## e 受託事業等

## ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業

## 一 地域の小中学校との連携プログラム

## 【企画制作】

## 中学生の能楽大連吟～未来～

日時：2021年11月23日（火・祝）

会場：ロームシアター京都 サウスホール

9月～11月に京都市内の6つの中学校を複数回訪問し、能「高砂」を稽古し、11月23日にその成果を、プロの能楽師と共に舞台上で発表します。

※稽古も含め全体が中止となりました。

## 一 【受託事業】

## 教文伝統芸能シリーズ「能楽なう」

日時：2021年9月8日（水）13:00 開演

会場：札幌市教育文化会館 大ホール

内容：宝生流能「巻絹 五段神楽」、大蔵流狂言「素袍落」、観世流「葵上 梓之出 空之祈」

出演：和久莊太郎、深野貴彦、茂山茂ほか

主催：札幌市教育文化会館

企画制作：伝統芸能アーカイブ&amp;リサーチオフィス

## f ウェブサイトとYouTubeチャンネル

— <http://www.traditional-arts.org/>

TAROの最新ニュースやイベント情報を掲示しているだけでなく、伝統芸能文化に関する記事や、過去事業の記録を動画と文章で随時投稿しています。ウェブ相談窓口では、伝統芸能文化に関する相談、伝統芸能文化復元・活性化共同プログラムに関する相談、イベントに関するお問い合わせ等を受け付けています。いつでも気軽にアクセスできるウェブサイトが皆さんと繋がる第一歩となります。また、TAROの年度事業報告書や、「伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム」の各種発行物、「伝統芸能文化センター」設立に向けた京都市と京都芸術センターの取り組みをまとめた冊子「伝統芸能文化センターの実現を目指して」もダウンロードできます。

これまでTAROのYouTubeチャンネルは主に、過去に実施した公演やシンポジウムなどの映像記録を公開するための場でしたが、2020年度からは、ウェブ向けに作成した動画コンテンツを配信するためのプラットフォームとして活用しています。





## g 伝統芸能文化創生プロジェクト推進会議委員より

TARO は、伝統芸能に関する専門家からの意見を仰ぐ機会として伝統芸能文化創生プロジェクト推進会議を設置しています。

<p>伝統芸能文化創生 プロジェクト推進会議委員</p>	<p>久保田裕道（東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形民俗文化財研究室長） 小林昌廣（情報科学芸術大学院大学 教授） 竹内有一（京都市立芸術大学 教授） 田口肇（京都市産業技術研究所 第5研究部長）</p>	<p>西岡陽子（大阪芸術大学 教授） 広瀬依子（追手門学院大学 国際教養学部 講師） 吉田純子（文化庁 文化財第一課 芸能部門 調査官） 山中博昭（京都市 文化芸術政策監）</p>
----------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ○ コロナ禍の民俗芸能における映像発信 —— 久保田 裕道（東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形民族文化研究室長）

コロナ禍がこれほど続くとは思わなかった、という思いは誰もが抱いていることだろう。1年に一度しか開催されない祭りや民俗芸能が2年中止すれば、足掛け3年の空白になってしまう。ちょっと休むだけだからと言っていた継承団体も、さすがにこれだけ長引くと、継承が心配になっている。

祭りができないのは仕方がないとしても、代わりに何かできることがないだろうか。そう考えた継承者たちから、映像を活用した取り組みが始められたのは、最初の緊急事態宣言の最中であった。

「うちで踊ろう」動画に触発されてリレー動画を始めた、無観客で演じる様子をライブ配信で流したり、練習をリモートツールでやってみたりと、さまざまな映像発信が試された。しかし、どうも振るわない。どんなに素晴らしい映像でも、リアルには叶わない。この現実はずべての芸能にいえることだが、中でも民俗芸能はリアルでなければ魅力は半減する。それがわかってきたのか、コロナが2年目に入ると、映像発信も一時の勢いを失ったように思える。

しかしそれでも、継承を絶やさないためにも、映像発信をどのように活用すればよいのか。そういう問いが伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィスにも寄せられると聞く。また、文化庁からそうしたプランに対する助成も出るようになり、益々その必要性は高まってきた。問題は、映像をうまく活用できる、そうしたノウハウを有したコーディネーターがいないことなのである。

文化財行政や学芸員、あるいは研究者たちは記録作成の経験値は有していても、発信となると難しい。逆に発信を得意とするマスコミや映像製作者たちは、何が民俗芸能や祭りの継承に役立つのかわからない。そうした人々の間を取り持つようなコーディネーター的な存在がいま必要とされているのである。

では、具体的にどのような発信をすれば継承に貢献で

きるのか。これまで行われた事例から、いくつか取り上げてみよう。

まずリアルタイムでのライブ配信。いま演じられている芸能を、同時に共有できるという魅力がある。さらに投げ銭機能などを用いて、祭りや継承団体への寄附を行うことも可能である。しかし視聴者にとってはリアルタイムでのメリットは小さく、単なる記録動画との差異化はなかなか難しいというのが、現実問題となっている。

ライブ配信の中に、遠隔地の継承団体との交流を組み込んだ事例もある。例えば獅子舞は全国各地に伝承されているが、遠隔地の伝承者とオンラインで交流することによって、互いの芸能を知るだけに止まらず、伝承上の悩みなどを共有することもできる。遠距離であるために実際に行き来は難しいが、コロナ禍でリモートミーティングが一般化したからこそ可能となった、新しい継承者間交流の形かもしれない。

続いて、継承団体内部での活用となるが、継承を目的とした映像テキスト作りがある。休止期間を利用して、継承のための教則映像を作成したといった事例である。観客はいなくても、そうした映像作成を行うことで、伝承者のモチベーションも維持できるというメリットもある。またある団体では、コロナ禍に祭りを行うための検証実験を行って、その映像を公開した試みもあった。

しかしいずれにしても、実演が伴えばそのための稽古が必要となり、コロナ禍での制限は変わらない。さらに映像を発信した後は、第三者からの批判に曝されるということも、当然起こり得よう。

それでも、そうした第三者の理解を得るためにも、映像による発信は必要である。炎上を怖れていつまでも祭りや民俗芸能が再開できない——そうなることが継承への最も大きなダメージである。いまこそ、皆で知恵を絞っていくときである。

### ○ コロナ文化の中の動画配信

小林昌廣（情報科学芸術大学院大学 教授）

コロナ禍はすでにコロナ文化と呼んでもいい状況になっている。元衛生学者としてのぼくの予想ではこの「文化」は2024年くらいまでは継続すると思っている。

それはともかく、このコロナ文化において圧倒的な変更は、大学などにおけるいわゆるリモート授業である。大学は「対面」か「リモート」か授業の形態を選択することを教員に課している。語学や実習をとまなう講義はもちろん対面（オンサイト）が望ましいが、座学の授業であれば、スライドの見やすさやどこからも出席できるメリットがあって、リモート（オンライン）が好まれている。

事実、オンライン講義の方が出席率も高く、レポートの提出率も高い。だから、教室で授業を聴くという選択肢は、コロナ禍による緊急避難的な止むを得ない方法ではなく、新しい授業形態として位置づけられるようになっている。たしかにぼくの「身体表現研究」といった講義は舞踏や古典芸能など、数多くの身体表現の動画をいつもは教室で見せていたが、その情報をドライブに入れて、リンクを学生に配布すれば、受像環境はそれぞれ違うが、皆が好きな時間に好きに鑑賞できるのが好評価なのである。その意味では、少なくとも大学の授業においては舞台芸術というジャンルはオンラインにせよオンサイトにせよ、「動画」で再生され鑑賞されるという態度に変わりはないのである。

だから、コロナ禍で多くの舞台の上演が中止になったり延期になったりするという状況においても、そうした現状と、講義で扱う動画とのあいだにはほとんど関係がない、と言えるのだ。実際、鑑賞される動画はまちがいに過去動画であり、それは記録としての身体表現だ。無料の動画配信ソフトからダウンロードしたものを観る場合もあれば、有料のDVDをキャプチャリングして鑑賞することもある。いずれにしても「今の舞台」ではない。

ところが、今はいろいろな形態で「生の舞台（の動画）」が配信されている。もちろん舞台芸術にとっては緊急避難的な意味合いしかないだろうが、鑑賞する側からすれば、場所や日時にこだわらず（こだわることから舞台の体験が始まるというのが通常なのだろうが）舞台（の動

画）を楽しむことができるのは、さまざまな限定がそこにはある、ということ十分に承知の上でも、これは否定的に捉えるべきことばかりではないだろう。言うまでもなく、舞台芸術とは、その場にいた者だけが享受するものではないだろう。そこにおいては「日時」「場所」「行為者」といった絶対的に必要な要素が舞台芸術を構成していると思われていたが、無観客であろうが、有料配信であろうが、「生の舞台」との差異を孕みながらも、それしか鑑賞できない者にとっては「唯一の舞台」なのである。

山村流の宗家友五郎は日本舞踊上方舞山村流公式配信をYouTubeで配信しているが、2月25日現在で75回もの舞台を見せてくれている。コロナ禍でなければ、75回も山村流の地歌舞を観ることなどできなかったのだ。これは小さな努力が上方舞に大きな影響を与えることになる試みであると断言できる。すべてをチェックしているわけではないが、コロナ禍によって特に能楽において動画の配信が目立って増えているように感ずる。それは歌舞伎や現代演劇のような大規模な舞台や人員を必要としないという特典をうまく利用した手法と言えるが、何よりも能楽師たちが「能を知ってもらいたい」という強い気持ちがある動画からも感得できるのである。

つまり、舞台芸術として、動画配信はコロナ禍に対抗する措置などではなく、あくまでも「生の舞台」に足を運ぶことができない、動員される観客よりもはるかに多くの潜在的観客を集める力を持っているのである（これはアイドルグループの配信ライブにおいてより顕著である）。「生の舞台」がいいに決まっている、だがそこに行けない人たちはコロナとは関係がないだろう。そういった人たちに舞台芸術や古典芸能のサワリないし片鱗だけでも見ることができれば、長期的には大きな影響力を持つことになるだろう。それは記録となり記憶となって多くの人々の脳裏に焼き付くはずだ。六代目菊五郎の「鏡獅子」の生の舞台には間に合わなかったが、小津安二郎によって撮られた映画を観ることで、ぼくたちは「六代目菊五郎」を観たと言ってもいいのではないか。

## ○ つながりが作る「伝統」

広瀬依子（追手門学院大学 国際教養学部 講師）

この2月、OSK日本歌劇団100周年創立記念公演『レビュー 春のおどり』が、大阪松竹座で行われた。新型コロナウイルスの影響で一部日程が中止となったのは残念だったが、全体とならなかったのは救いであった。

OSKは大正時代後期、大阪で創立された。宝塚歌劇が生み出した少女歌劇の形式で出発し、その新しい表現は人気を得た。日本物と洋物のショーの2部構成で行われた今公演で、洋物の『INFINITY』の作・演出を手がけた萩田浩一氏が、公演パンフレット（令和4年2月5日発行）に「ご挨拶」として次のとおり綴っている。

レビューとは、不変の芸術を同時代的な娯楽に溶かし込んで陶然とさせる魅惑の時間です。（中略）数多の苦難を乗り越えて、かつての残り香を今に伝える貴重な遺伝子の一つがOSK日本歌劇団さんです。ただ、同時にレビューの世界は、それを支える表現者が常に入れ替わっていくさだめにあります。そのたびに装いも手法も雰囲気も刷新されて参ります。

この部分を読んで、伝統芸能と同じだと感じた。逆に言えば、だから100周年を迎えることができたと感じる。レビューの舞台は、伝統とは一見関係ないように思われる。しかし、何事によらず始まりはある。初めから古いものなど、あろうはずもない。伝統芸能も誕生した時は新しい表現だった。長年受け継がれていく間に、伝統が構築されていったのである。

伝統芸能は、演者が長く活動を続けることが多く、レビューのように「常に入れ替わっていくさだめ」にあるわけではない。しかし、いつかは交代の時期がくる。サイクルの長短という違いはあっても、先輩から後輩へ、

師匠から弟子へと芸が受け継がれていくのは共通しているのだ。また、古典作品は常に同じ表現を行っているわけではない。もちろん基本は大事にしなければならない。その上で、時代や演者が変われば、表現方法や演出が異なってくることもある。まさに「不変の芸術を同時代的な娯楽に溶かし込んで」いるのである。

さらに、伝統芸能文化創生プロジェクトでも同じことを感じる。私は伝統芸能文化復元・活性化共同プログラムの審査を行う一員であるが、毎年、後継者育成に重きをおく応募者の方々がいらっしゃるのを目にする。たとえば令和3年度の採択は3件で、その中に「笛譜・唱歌製作による石見神楽の継承円滑化事業」と、ずばり「継承」という言葉が入ったプログラムがある。他の2件は「古物重厚意匠糊地能楽扇の写し製作」「三味線音楽のScratch教材開発・常磐津節を通じて日本の伝統芸能に親しむための教育プログラムづくりとその普及の試み」。道具や楽器類の復活、普及活動であるが、人の手がなくては成し遂げられない。芸能や地域文化は人から人へと伝えられてきたものということがよくわかる。

また、事務局をつとめる伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィスのスタッフは、電話や対面で、団体・個人からの相談に対応している。採択されているかどうか、申請年度を過ぎているかどうかにかかわらず、時には目的に合致しそうな団体どうしを紹介することもあると聞く。ここからまた、つながりが生まれる。さらに団体どうしだけでなく、スタッフと相談者の間にもつながりが芽生えるのだ。このようなネットワーク構築は累計で70件に及ぶという。

新しい文化は、やがて伝統になる。それは人と人とがつながる日々の営みの中から育っていくのだ。

※

※